

# HIV治療とエイズ治療・研究開発センターの歴史

2020

血友病薬害被害者手帳 発行

UNAIDSが2030年のエイズ流行終結に向けた目標を発表(90-90-90 by 2020)

国内で初めてのsingle tablet regimen(スタリビルド®)発売  
1日1回1錠の時代へ

日本エイズ学会認定制度開設

米国CDCが曝露前予防目的でのツルバダ®使用を承認

2010

国内初のインテグラーゼ阻害剤Raltegravir(アイセントレス®)発売

国内初の経口CCR5阻害薬Maraviroc(シーエルセントリ®)発売

国内初の多剤耐性HIV治療プロテアーゼ阻害剤ダルナビル(プリジスタ®)発売

エイズ治療中核拠点病院整備

2000

エイズ予防法が廃止され「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」制定  
薬害根絶を願い、厚生労働省の正面玄関前に「誓いの碑」が設置される

免疫機能障害が身体障害者・障害年金の対象に認定

国内で初めて非核酸系逆転写酵素阻害剤(ビラミューン®)発売

エイズ診療拠点病院体制整備  
国内で初めてプロテアーゼ阻害剤Indinavir(クリキシパン®)発売  
多剤併用療法(HAART)が可能となり予後が大きく改善した

東京・大阪HIV訴訟の和解が成立 | 3月  
日本で第3番目の抗HIV薬ddC(ハイビッド®)が承認される | 4月  
国連合同エイズ計画(UNAIDS)が発足

厚生省を3500人で囲む「人間のくさり」 | 7月

エイズ治療拠点病院整備

日本で第2番目の抗HIV薬ddl(ヴァイデックス®)が承認される | 6月

レドプリボンがAIDS啓発の世界的なシンボルになる

1990

「後天性免疫不全症候群の予防に関する法律」施行 | 2月  
大阪HIV訴訟第1次原告提訴 | 5月  
東京HIV訴訟第1次原告提訴 | 10月

第1回世界エイズデー(12月1日)

日本で初めての抗HIV薬AZT(レトロビル®カプセル)が承認される

1980

非加熱血液製剤の自己注射が保険適用される | 2月  
CDCが11例の血友病患者のHIV感染は血液製剤が原因とみられると報告 | 3月  
米食品医薬品局(FDA)が米国で加熱製剤を承認 | 3月

日本初の薬害エイズ被害者の報告 | 7月  
フランスのモンタニエ氏と米国のギャロ氏が同時に原因ウイルスを分離し、後にHIVと命名される | 7月

CDCが血友病患者のエイズ症例、輸血・血液製剤によるエイズ症例を報告

米国疾病予防管理センター(CDC)が男性同性愛者5名のカリニ肺炎を報告

2020  
2019  
2018  
2017  
2016  
2015  
2014  
2013  
2012  
2011  
2010  
2009  
2008  
2007  
2006  
2005  
2004  
2003  
2002  
2001  
2000  
1999  
1998  
1997  
1996  
1995  
1993  
1992  
1991  
1989  
1988  
1987  
1985  
1983  
1982  
1981

- 国連合同エイズ計画(UNAIDS)と覚書を締結  
【研修・資料開発】新しいe-learningシステム開発
- 【国際研究】ベトナムにおいて「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)」(2019-2024年度)を開始  
The path to ending AIDS: Mobilizing the city for Tokyo 2020を開催
- 薬害HIV救済医療シンポジウム開催  
PMDA報告書データを元にした薬害HIV被害者個別支援を開始  
CAIDS・ACC・ARC合同シンポジウム開催
- 包括外来前に「命の樹 モニュメント」設立  
エイズ治療・研究開発センター開設20周年記念式典  
第1回日台合同HIV/AIDSシンポジウム開催  
救済医療ウェブサイト開設  
Sexual Health外来開設・ウェブサイト開設
- 研修受講者が累計3000人を突破  
【臨床研究】Agingに伴う合併症スクリーニングに関する研究/HAND研究開始  
【国際共同治験】史上初の注射剤2剤のみによる抗HIV療法  
Cabotegravir/Rilpivirineの国際共同治験に参加
- 外来受診者数が4000人に達する  
【医学研究】コミュニティセンター-aktaと協力し郵送検査「HIV-Check」開始  
【資料開発】薬害被害者診療用「診療チェックシート」解説書 発行  
ACCセンター長の岡嶋一が第29回日本エイズ学会学術集会・総会会長を務める  
【臨床研究】日本におけるHIV関連神経認知障害に関する疫学研究(H-HAND研究)
- 薬害HIV感染被害者の患者を対象としたリハビリ検診会を  
NCGMリハビリテーション科と合同で初めて開催(年1回定期開催)  
【資料開発】薬害HIV感染被害者向け「Support Fact Book Sheet(ver.1.0)」発行  
【国際研究】モンゴルにおいてゲイ・バイセクシャル男性のコホート研究開始
- 研修受講者が累計2000人を突破
- 救済医療室開設  
【臨床研究】テノホビル、エムトリシタビン(あるいはラミブジン)とロピナビル/リトナビル合剤を用いているHIV感染者を対象に、現行レジメン継続とラルテグラビル、プリジスタ/リトナビル併用とを無作為に割りするオープンラベル多施設共同臨床試験(SPARE試験)実施  
【国際研究】ベトナムにおけるHIV感染者の予後に関する多施設共同観察研究:JGRID第II期(2011-2020)  
ACCベトナム拠点ウェブサイト開設  
【研修】周産期・小児医療(産婦人科医、小児科医、助産師等)コース開設  
【研修】地域支援(保健師、訪問看護師、ヘルパー、介護福祉士等)コース開設
- 【研修】薬害訴訟コース開設
- 第1回日韓合同HIV/AIDSシンポジウム開催  
【臨床研究】MK-0518(raltegravir)の早期供与プログラムへの参加(国内初)  
【臨床研究】HIV感染に対する一日一回併用療法として、アタザナビル/リトナビルを固定シエブジコムとツルバダを無作為に割りするオープンラベル多施設共同臨床試験(ET study)  
【研修】短期基礎(1日間)コース 開設
- 外来受診者数が1000人/月に達する  
【国際研究】薬剤耐性HIVの感染拡大防止に向けたベトナムとの共同研究:JGRID第1期(2006-2010)
- 【臨床研究】1日1回併用療法の無作為に割りする多施設共同試験:OD試験  
【資料開発】医療者向けテキスト「診断と治療ハンドブック」初版発行  
【資料開発】e-ラーニング開設
- 【大規模国際共同研究】2種類の抗HIV治療法比較の大規模臨床試験(SMART試験)に参加  
【研修】盲腸癌の医療機関への出張研修開始
- 10月 | 満屋裕明 現 国立国際医療研究センター研究所長が  
ダルナビル(プリジスタ®)を初めて発表  
【国際共同治験】抗HIV治療薬による頭面筋動脈瘤に対するGH投与臨床試験  
【資料開発】「HIV/AIDS看護ハンドブック」発行
- 登録患者数が累計1000人に達する
- 東京大学移植外科と協力し、  
世界初HIV/HCV重複感染血友病患者の生体部分肝移植が実現  
【臨床研究】薬剤血中濃度と代謝酵素に関するテラヌーサイド治療の開発:  
ストックリン薬量試験・ザンピタとの共同研究  
【国際研究】アジア20カ国の大規模コホート研究TREAT Asiaに参加  
【資料開発】患者向け教材 患者ノート英語版発行
- 【臨床研究】副作用としてのミトコンドリア障害に関連する体質に関する研究  
【国際共同治験】ESPRIT 国内から海外HIV臨床治験に初参加  
【研修】アドバンストコース開設  
【資料開発】医療者向けテキスト「エイズ・クオリティケアガイド」発行
- 【臨床研究】計画的治療中断(STI)  
【研修】歯科、短期基礎コース開設  
【資料開発】医療者向けビデオ教材「実践1エイズトータルケア」ver1.0 発行  
【資料開発】医療者向けテキスト「針刺し事故防止ハンドブック-肝炎/AIDSへの対応-」発行
- 4月 | エイズ治療・研究開発センター開設・専門外来開所  
10月 | 専門病棟(20床)開所  
【研修】全国の医療者を対象にACC研修開設  
【資料開発】患者向け教材患者ノート初版発行
- 6月 | 満屋裕明 現 国立国際医療研究センター研究所長が開発した  
第3のHIV治療薬「ddC」が米国で認可される
- 1月 | 満屋裕明 現 国立国際医療研究センター研究所長が開発した  
第2のHIV治療薬「ddl」が米国で認可される
- 国立病院医療センターに「エイズ医療情報センター」設置
- 満屋裕明 現 国立国際医療研究センター研究所長  
米国NIHレトロウイルス感染症研究部部長(併任)  
が世界初のHIV治療薬「AZT」を開発